

## 令和4年度 研究助成費報告書

|   |   |                   |                        |                               |     |        |
|---|---|-------------------|------------------------|-------------------------------|-----|--------|
| ふりがな<br>研究者代表者氏名                              | とみた かんじ<br>富田 幹次 ㊞                              | 所属研究機関<br>部 局 ・ 職 | 高知大学・教育研究部自然科学系農学部門・助教 |                               |     |        |
| 研 究 課 題                                       | ニホンノウサギの効率的な捕獲方法の確立: 幼齡人工林での食害被害の低減に向けて         |                   |                        |                               |     |        |
| 研 究 経 費                                       | 年 度   | 研究経費<br>(円)       | 使 用 内 訳 (円)            |                               |     |        |
|   |   |                   | 物 品                    | 旅 費                           | 謝 金 | その他    |
|   | 令和4年度   | 399,578           | 379,578                | 0                             | 0   | 20,000 |
|   | 令和5年度   | 422               | 422                    | 0                             | 0   | 0      |
|   | 計   | 400,000           | 380,000                | 0                             | 0   | 20,000 |
| 研究組織 (研究代表者及び研究分担者) (研究分担者も、本研究計画に常時参加する者です。) |   |                   |                        |                               |     |        |
| 氏 名 (年齢)                                      | 所属研究機関・部局・職                                     | 現在の専門             | 学 位                    | 役 割 分 担<br>(本年度の実施計画に対する分担事項) |     |        |
| 富田 幹次(29)                                     | 高知大学・教育研究部<br>自然科学系農学部門・<br>助教(農林海洋科学部<br>専任担当) | 動物生態学             | 博士(環境<br>科学)           | 研究の総括、実験の遂行、データ分析             |     |        |
| 内田 爽太(22)                                     | 高知大学・農林海洋科<br>学部・学部生                            |                   |                        | 実験遂行、データ分析                    |     |        |
| 合計 2 名 (うち他機関分担者数 0 名 )                       |   |                   |                        |                               |     |        |

**研究結果**

(年度別に具体的かつ明確に記入して下さい。)

**背景**

高密度化した野生動物による林業被害が深刻な問題になっており、捕獲による個体数調整は林業被害を減らすために必要不可欠である。しかし、ハンターの減少・高齢化が著しい日本では、捕獲に十分な労力をかけることができないため、効率的な野生動物の捕獲方法を確立することが急務である。近年ニホンノウサギ(以下ウサギ)の植林地への被害報告が増えはじめている。生態調査や個体数調整のためにウサギを捕獲する技術を確立する必要があるが、有効な誘引エサは不明である。本研究の目的は、ウサギの効率的な捕獲方法の確立を目指して、誘引エサの効果を比較し、捕獲の際に有効なエサの選定を目指す。

**方法**

本研究は高知大学嶺北フィールド(高知県大豊町)で実施した。先行研究と事前に実施した痕跡調査によりウサギの生息が確認された7地点に誘引物4種類(ヘイキューブ、飼料用トウモロコシ、鈹塩、リンゴ)をプラスチックトレイに入れ、誘引物に移るように自動撮影カメラを設置した。これらの餌は先行研究などを参考に決めた。また、動物が餌に誘引されるかを調べるために誘引物の付近にカメラを設置した。誘引区から十分離れた距離に自動撮影カメラを設置し、対照区とした。調査は2022年9月から12月にかけて実施し、隔月1週間を調査期間とした。



林内に設置された誘引物



自動撮影カメラから見た誘引物

**結果と考察**

調査期間を通してウサギは4回しか撮影されなかった。撮影されたその他の動物は、タヌキ、イノシシ、ネズミ、カラス、カモシカ、ハクビシン、イタチ、そしてニホンジカであった。最も撮影されたのはタヌキで、調査期間を通して570回も撮影された。次に撮影されたのはネズミで105回撮影された。タヌキ、ネズミ、イノシシ、カラスのほとんどは誘引区で撮影されたため、これらの動物は餌を使った誘引に成功したといえる。行動観察が可能な動画の分析より、タヌキとネズミはトウモロコシを最も採食していた(タヌキ:245/289、ネズミ:21/23)。また、ハクビシンはリンゴを採食していた。

本研究の結果、ウサギの好む餌を特定することはできなかった。ウサギが誘引されなかった原因としては、タヌキやイノシシといった中大型哺乳類が頻繁に誘引区を訪問していたことが考えられた。これらの哺乳類の存在によって、ウサギが誘引されなかったのではないかと考察される。今後は、他の哺乳類が強く好んだトウモロコシやリンゴといった餌を使わずに、ヘイキューブや鈹塩のような餌を使った実験を行うことで、ウサギの誘引に成功し、好む餌を特定していきたい。また、タヌキやネズミ、イノシシがトウモロコシを好むことがわかったため、これらの種を捕獲する際はトウモロコシを使うと効率が上がるかもしれない。特にイノシシは近年深刻な農作物被害を起こしているため、個体数調整のための捕獲事業に重要な知見である。